

一般社団法人 日本弱酸性美容協会主催

18th Symposium 7/5～7/6

第18回加齢美シンポジウムが開催されました

わたしたちは“弱酸性美容室”

Hair to Heart, Heart to Heart

7月5日(月)と6日(火)、2日間にわたって全国から日本弱酸性美容協会会員およびご招待のお客様が集う恒例の加齢美シンポジウムが、東京ドームに至近の文京シビックホール(大ホール)にて盛大に開催されました。参加数延べ3,187名
今年で18回目、2年に1回各界から一流講師をお招きして開催される協会の主要なイベントです。

7月5日と6日両日のプログラムは以下のとおりです。

第1日目 開演 12:00～

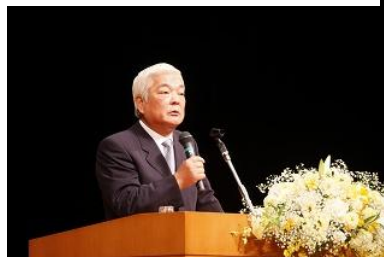
■前田芳子副理事長・・・開会の挨拶

「ベル・ジュバンスのシンポジウムではお馴染みの『加齢美』という言葉は、三十数年前、先代山崎伊久江会長が提唱されました。当時は何のこと？と聞かれることもありましたが、高齢化社会になり『加齢美』という言葉も今ではすっかり「普通語」になっています。本日から2日間、すばらしい先生方の講演を聴き、受け止めたことを私たちの日々の生活の中に活かしてまいりましょう」



■山崎光信理事長・・・基調講演

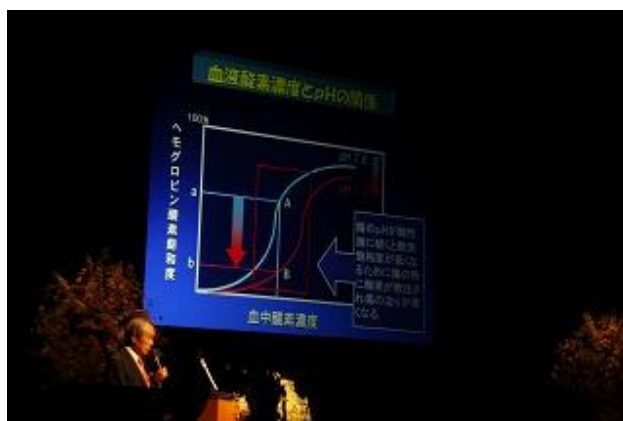
「ベル・ジュバンスは今年11月で47歳を迎えます。3年後はいよいよ50周年、誕生して半世紀ということになります。ベル・ジュバンスは時間はかかっても少しずつ少しずつ進み続けており、それに伴っていろいろな道が私たちの前に開けつつあります。来年度は全国7支部でシンポジウムが予定されており、宮崎看護大学学長の薄井但子先生とのご縁や、30年前の梅田玄勝博士のPCB排泄研究の掘り起こしに着手してくださる中島裕而先生などのご助力をいただき、先代山崎伊久江が切り開いた道をさらに進められるのではないかと、大きな期待をしております」





- 田澤賢次先生・・・
- 講演テーマ「ベル・ジュバンスとデトックス 2010」

昨年の秋発行されベル・ジュバンスの解説本としてわかりやすいと大好評の「外科医を驚かせた弱酸性美容法」。この本を監修して下さったのが、富山医科薬科大学名誉教授の田澤賢次先生です。今回もベル・ジュバンスを開発した先代山崎伊久江の先見性に触れられ、今日の健康美容、デトックスの先駆けともいえる弱酸性美容法を再検証するテーマの講演になりました。弱酸性に着眼した美容法ベル・ジュバンスを高く評価し、ヘアエステ廃液に含まれる活性酸素はじめ有害ミネラル類の排出データを、施術技術や使用薬液の種類や量と排出効果の関係で示していただきました。



- デューク更家先生・・・講演テーマ「人生が変わる・ウォーキング力」

今や一流スポーツ選手から一般人までその独自のトレーニングが大人気のデューク更家先生。独自のウォーキングスタイルを確立されたデューク更家先生の、ウォーキングで鍛えたスリムな身体は、血管年齢 20 歳、内臓年齢 28 歳、骨密度 35 歳とか。元気いっぱい関西弁の軽妙な語り口が満場の聴衆のハートを掴み、講演後半はデューク先生の呼び掛けで会場からはステージに上がる人が続々と。Vライン、Iライン、とデューク先生の掛け声に乗って「幸せオーラを出す」ウォーキングレッスンに会場総立ちですっかりハマってしまいました。



■テクニカルステージ

山崎伊久江美容研究会講師陣による「ヘアエステ検証！プロとアマの違い」

・検証・弱酸性ヘアエステの施術効果・・・初心者と熟練者ではそのテクニックのどこが違うのか・・・遠藤繁樹講師がスライドを示しながら明快なレクチャー。



ベル・ジュバンス ウェーブコレクション

二代目山崎伊久江講師 村木秀行講師 加瀬賢一講師



スタイルが出来るまでのポイントを沢山の写真と映像で解説。

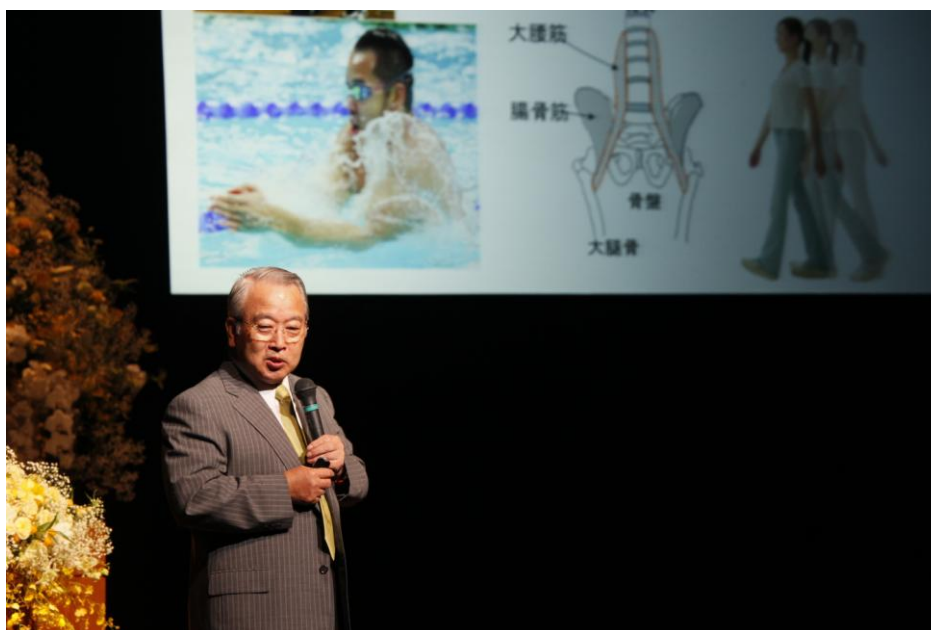
Live では伝え難い細かい点をわかりやすく紹介できました。



第2日目 開演 10:00～

■林 成之先生・・・テーマ「自分を育む脳科学・考える力とこころ」

脳ブームの昨今ですが、林成之先生はまさに脳科学の第一人者。「勝負脳」というキーワードでスポーツ界だけでなく、ビジネス界や広く一般の読者に影響を与えておられる林先生に、脳が求めている人間本来の生き方、「感動のある生き方」「損得抜きに素直に全力投球できる生き方」の素晴らしさを脳科学に照らして解説していただきました。



■櫻井よしこ先生・・・テーマ「日本よ、のびやかなれ」

加齢美シンポジウムでは連続してご登場の櫻井よしこ先生。今回も日本人として国を愛し、誇りを持ち歩み続ける為に、正しく国家を導いてくれる指導者を、国民が選挙という唯一の政治参加の中、この機会を無駄にしないようにと。またこの混迷する日本国を愛すればこそ警鐘を鳴らすという意味で、広く熱い90分でした。



■美輪明宏先生・・・テーマ「生きやすい生き方」

真に美しいものや芸術を心から愛する美輪明宏先生のお話は、それまであった美しいものや芸術全般が否定され消えて行った無残な戦争時代の回想から始まりました。人はどんな時にも美しいものを求めなければならない。日本には歴史と美意識に磨かれたすばらしい文化がたくさんあることを大切にしてほしい。「天に星、地に花、人に愛。ほほえみの似合わない人はいません。観音様のように長いスパンで世の中を見ていくと、世界はよくなっている。絶望することはありません。ずうずうしくたくましく生きていってください」と愛情あふれるエールを送ってくださいました。



■愛の募金贈呈 今年も協会は100万円の寄付を行いました
社会福祉法人産経新聞厚生文化事業団東京支部 東京支部長松原英夫氏



■宮崎県の酪農家・口蹄疫被害へのお見舞いの募金
急遽2日間で行った義援金募集にて、集まった金額は548,370円これにNPO法人愛の募金より100,000円を拠出したものを加え、648,370円の寄付を宮崎支部長を介して行いました。
後日、2010年7月14日に完了報告を受け、宮崎日日新聞にも義援金コーナーに団体名が記載されております。



■佐藤 進副理事長・・・閉会の挨拶

「素晴らしい講師の先生方をお迎えし充実の2日間のうちに幕を閉じさせていただきます。50年間近く変わらずお客様にはベル・ジュバンスをご愛顧いただき感謝いたします。世界中さがしてもないベル・ジュバンスというすばらしい美容を誇りに思う1800名の会員とともに、これからもこの美容の普及に努力してまいります」

終了 16:00